

平成29年10月14日

(あて先) 熊本市長

団体名 Wish happiness

代表者 職名 代表 氏名 福富 有里



熊本市市民公益活動支援助成金実績報告書

平成29年4月1日付け指令(地活)第1-13号により、熊本市市民公益活動支援助成金の交付決定を受けました事業の実績について、熊本市市民公益活動支援基金実施要綱第20条の規定により、関係書類を添えて下記のとおり報告します。

記

1 助成事業名

子供服無償提供活動

2 助成事業の実施期間

2017年4月1日 ～ 2017年9月30日

3 助成事業の内容

サイズアウトした子供服を集めサイズごとに仕分け梱包を行い、ひとり親世帯や震災後経済的に困っているご家庭を対象に無償提供を行う。LINE、Twitter、FacebookなどのSNSを使って活動を広め、孤立しがちなひとり親に対して幅を持った支援をする。

4 事業の成果

子ども服支援のフライヤーを2500枚増刷して、子育て支援センターの窓口等計27か所に設置した結果、2017年9月現在依頼件数346件、支援した子供達は延べ716人となった。

5 助成事業の実施状況

- (1) 事業収支決算書(様式第16号)
- (2) 事業の経過又は成果を証する書類等
- (3) その他参考となる資料

事業報告書

実施年度	平成 29 年度
事業名	子供服無償提供活動
事業期間	平成 29 年 4 月 1 日 ～ 平成 29 年 9 月 30 日
事業の目的	2012 年熊本県ひとり親家庭等実態調査によると、熊本県の母子家庭の就業率は 87.6%と高い割合になっていますが、平均年間収入については全国平均より低くなっており、十分な収入を得られていません。そういったもともとの背景に加え、今年 4 月に起こった熊本地震により、県内のひとり親世帯は大変な苦境に立たされています。また、ひとり親世帯だけでなく、震災の影響で収入が激減したり、自宅が全壊したため住まいの再建に不安を抱えている家庭が多く存在しています。そうした家庭の負担を少しでも軽減したいとの想いでこの活動を行います。
具体的な 事業内容	子供服支援事業 ◆準備～お届け 4 月～9 月依頼件数（実績） 1 4 2 件 うち、配達件数（実績） 1 0 3 件 スタッフ交通費一件につき 5 0 0 円× 1 0 3 件＝5 1, 5 0 0 円 サイズ仕分け、梱包作業のため駐車場代 1 1, 4 0 0 円 （※配達・作業に関わった人数は各 4 人程度） ◆チラシ作成・配布 （2, 5 0 0 枚印刷） 印刷費 4, 8 5 0 円 熊本市保健こども課 5 ヶ所

	熊本市母子父子福祉センター 1ヶ所 熊本市本庁こども支援課 1ヶ所 熊本市子育て支援センター 20ヶ所 合計27ヶ所へ地域活動推進課を通して配布した。
実施場所	熊本県全域(熊本市、阿蘇郡、益城町、菊池郡、山鹿市) 等
事業の効果 ・公益性	子供の衣類や靴は、成長が早いのですぐにサイズアウトしてしまいます。子供の被服費についてアンケートを取ってみたところ、1シーズン1人の子供につき洋服と靴10,000円～20,000円かかる家庭が多いようです。 こうして考えると、子供が2人、3人という家庭では年間にすると被服費だけでも高額出費となります。買い替えることが困難なご家庭へ、全国から寄付されたおさがり子供服を支援することで、食費や光熱費などほかの必要な生活費にその分を充てることができます。 子供服の支援活動がきっかけになり、服以外の物資提供や育児に関する悩み相談など、有益な情報提供も行うことができています。これまでに支援したひとり親の方からは「力になってくれる方がいるということが励みになり、勇気づけられました」とのお声もいただいております、孤立しがちなひとり親世帯に対して幅を持った支援につながると感じています。 依頼件数は前年度4～9月では205件となっており前年度比69.2%と減少傾向にあります。これは熊本地震から1年経過し被災者の生活がやや安定してきたことと、2017年6月頃から依頼者へ罹災証明書又はひとり親と証明できる書類の提示を求めるように運用を変更したことが要因と思われます。本年度の依頼者へのヒアリングの中で、一部損壊では義援金等の公的資金援助を受けられないことから補修に費用がかかり家計を圧迫してい

	る、または地震前からひとり親世帯のため困窮しているなどの声が多く見受けられました。震災復興の進捗にかかわらずこの活動は継続していくべきだと考えます。
次年度以降の 事業展望	熊本県母子会と連携し、さらに有益な情報提供や個々の問題解決の支援ができるよう体制を整えている最中です。
事業への想い (当事業によってどのような熊本市にしていきたいか)	ひとり親世帯や震災で生活に困っている方への支援は、行政の取り組みだけでは追いついていない状況をアンケート結果から伺えます。貧困率などメディアで取り上げられていますが、一般の方は生活困窮者の声を実際に聞く機会がなく、身近に起きている状況についての実感が持てていません。この活動を通して、生活困窮者の声を表に出していくことで、新たな支援方法を見つけ出し、子育て世代を地域で支える街づくりを目指していきます。 子供服や物資の支援は、受益者にとって一時しのぎのものであり、問題の根本解決にはなりません。経済格差や多子世帯の生活苦を緩和するには社会そのものを変えていく必要があり、私どもだけの力では一石を投じることさえ難しいでしょう。しかし熊本地震以降、シングルマザーや子育て支援の団体が急増したように感じています。私どもだけの力では解決できない問題も、他団体や行政窓口との連携を密にとることで、個人個人の問題解決に一步でも近づけるよう最適な窓口へつなげていくことがこの活動の意義でもあると感じています。

事業収支決算書

項 目		金 額 (円)	内 訳
収 入	自己資金	0	会費
		0	当該事業による収益
		0	その他の自己資金
		31,236	寄附金・協賛金
	市民公益活動支援助成金	70,764	当該事業に対する助成希望額 (助成決定額 100,000 円)
	その他の補助金・助成金	150,000	オルビスくまもと未来基金
	計	252,000	
	助成対象経費	人件費	0
		報償費	0
		役務費	0
		使用料・賃借料	139,644 保管倉庫家賃 21,374 円×6 か月 (2017.4～ 2017.9 月) =128,244 円 駐車場代 11,400 円
		事務費	29,620 フライヤー印刷代 4,850 円 フライヤー印刷代振込手数料 216 円 コピー代 150 円 梱包資材代 842 円 不足分子供服購入費 23,562 円
		旅費	51,500 配達スタッフ交通費 500 円×103 件
		委託費	0
		その他	0
		小計	220,764
	助成対象外経費	その他	6,167 ホームページ用レンタルサーバ契約費 5,466 円 ドメイン取得費用 701 円
		委託費	25,069 ホームページ制作委託
		小計	31,236
	計	252,000	